

天敵（チリカブリダニ製剤，コレマンアブラバチ製剤）を利用したナスの害虫防除

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

ナスの主要害虫であるハダニ類及びアブラムシ類の防除にあたって，それぞれの天敵製剤の有効性を確認したのでその利用技術を参考資料とする。

2 参考資料

1) 夏秋雨よけ栽培において，ハダニ類（ナミハダニ及びカンザワハダニ）の防除対策には捕食性天敵チリカブリダニ製剤の利用が有効である（図 - 1，2）。

a 放飼方法：チリカブリダニが入った容器を放飼直前にゆっくり回転させて均一に攪拌した後，緩衝材のバーミキュライトごとナスの葉上に落としていく。

b 放飼時期：ハダニ類が散見され始めた発生初期に放飼する。

c 放飼量：10 a 当たり6，000頭（天敵製剤3本分）を放飼する。

2) 夏秋雨よけ栽培において，アブラムシ類（ワタアブラムシ及びモモアカアブラムシ）の防除対策には寄生性天敵コレマンアブラバチ製剤の利用が有効である（図 - 3，4）。

a 放飼方法：施設内で容器を開封し，アブラムシの発生した株を中心に，株元の地表面に容器ごと静置する。

b 放飼時期：アブラムシが散見され始めた発生初期に放飼する。

c 放飼量：10 a 当たり1，000頭を1週間間隔で2～3回放飼する（1回の放飼につき天敵製剤「アフィパール」で2本分，「アブラバチAC」及び「コレトッパ」で4本分）。

3 利活用の留意点

1) ナスで使用できる天敵製剤は，チリカブリダニ製剤で「スパイデックス」，「カブリダニPP」，「チリトッパ」，コレマンアブラバチ製剤で「アフィパール」，「アブラバチAC」，「コレトッパ」である（いずれの製剤も「野菜類（施設栽培）」として登録）。

2) 天敵製剤は入手後直ちに放飼する。

3) コレマンアブラバチはワタアブラムシやモモアカアブラムシには高い寄生性を有し，防除効果が期待できるが，ヒゲナガアブラムシ類に対しては効果がないので，発生しているアブラムシの種を確認する。

4) 天敵放飼後は天敵に影響のある薬剤は散布しない。また，天敵放飼前に天敵に影響のある薬剤を散布した場合，残効による影響期間を経過した後に放飼する。

5) 各製剤の価格について，チリカブリダニ製剤は1回放飼で10 a 当たり約1万5千円程度（労働費は約400円（約25分）），アブラバチ製剤は3回放飼で約3万円程度（同約500円（約30分））である。

（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部

電話 022-383-8123）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題及び研究期間 みやぎの環境にやさしい農産物栽培技術の確立 - 野菜編 2 - 平成 15 年 ~ 17 年

2) 参考データ

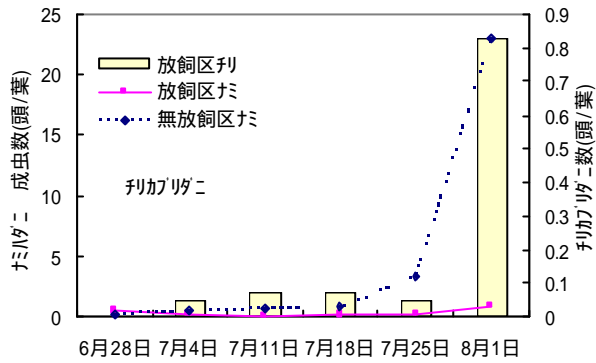


図-1 ナミハダニとチリカブリダニの発生推移(2002年)

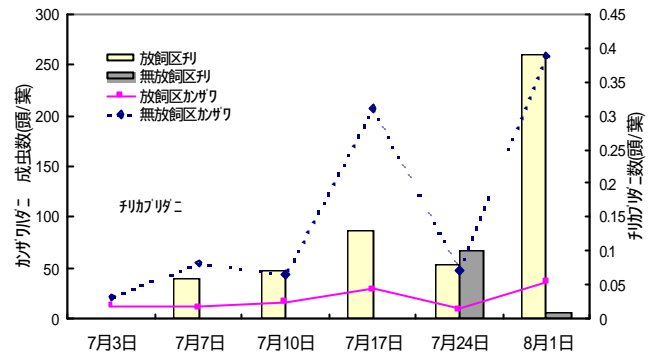


図-2 カンザワハダニとチリカブリダニの発生推移(2003年)

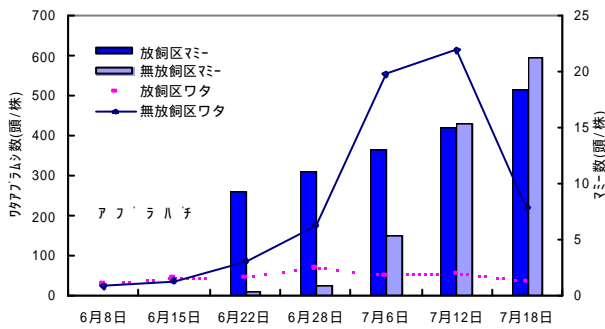


図-3 ワタアブラムシとコレマンアブラバチの発生推移(2000年)

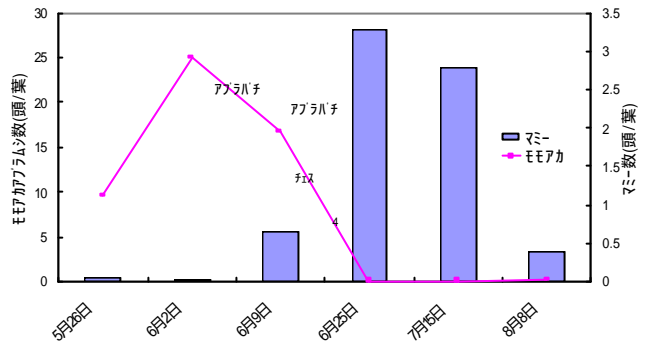


図-4 モモアカアブラムシとコレマンアブラバチの発生推移(8迫町, 2003年)

3) 発表論文等
なし